

## 審査の結果の要旨

氏名 石津 和子

我が国では 1970 年代後半から OA 化が、そして 1990 年代には IT 化が一気に進み、職場環境だけでなく、業務内容も大きく変化した。それにともないテクノストレスと呼ばれる心身の問題が新たに生じてきた。そこで本論文では、IT 化によって急速に広まった VDT(Visual Display Terminals)作業が与える心理的影響を調査するとともに VDT 作業による負荷への対応策を検討する。論文は、先行研究レビューによって問題の所在を明らかにする第 1 部、VDT 作業のストレスが精神的健康に及ぼす影響を調査検討する第 2 部、メールに関連するストレスとその対処法について調査検討する第 3 部、研究知見に基づき、職場における VDT 作業による心理的負荷への対応策を検討する第 4 部から構成される。

第 1 部では、VDT 機器普及に伴うストレス対策として作業環境の整備が中心となり、ストレスの原因に関する研究及び VDT 作業の中でも対話型作業従事者に関する研究が少ないことを示した。そこで、対話型作業に着目し、ストレス理論に基づいて VDT 作業の負荷を明らかにし、その負担の軽減対応策の検討を研究目的とすることとした。

第 2 部では、第 3 章で VDT 作業ストレス尺度を作成し、第 4 章では日本版 GHQ - 28 を用い、重回帰分析により VDT 作業ストレスと精神的健康の関連性を検討した。その結果、メール量の多さが「身体的症状」と「不安や不眠」を高め、メールのやり取りの質的負担が「不安や不眠」と「抑うつ」を高めることが示唆された。第 5 章では VDT 作業ストレス尺度及び緩衝要因として VDT スキルないし職務満足感を独立変数とし、GHQ - 28 を従属変数として、分散分析を用いて緩衝効果を検討した。その結果、VDT スキルの高さは精神的健康に影響しなかったのに対して、対人関係に関する職務満足感には「不安と不眠」と「抑うつ」に対する緩衝効果があることが示唆された。

第 3 部では、対面せずにコンピュータを介して行われるコミュニケーションである CMC (Computer Mediated Communication) が精神的健康に及ぼす影響を検討した。第 6 章では先行研究を概観し、第 7 章ではメールストレス尺度とメールストレス対処方略尺度(下位尺度:「ぐち」「対話」「割りきり」「推敲」)を作成し、精神的健康及びメール利用満足度との関連性を検討したところ、前者には「割り切り」と「対話」の有効性が、後者には「対話」と「推敲」の有効性が示唆された。第 8 章では組織風土と、メールのストレスや対処方略との関連性を検討し、生き生きした風土ではストレスが低く、合理的な対処方略がみられることが示された。

第 4 部では、これまでの知見を統合し、VDT 作業では個人だけでなく、職場のコミュニケーションの質が精神的健康に影響を及ぼすことを示した。本論文は、VDT 作業における量的負荷に加えて、CMC の普及によるコミュニケーションの質的負荷のあり方を明らかにし、それへの対処方略が精神的健康に与える影響を明らかにした点で特に意義が認められる。よって、本論文は、博士(教育学)の学位を授与するに相応しいものと判断された。